

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和7年 6月23日	
(宛先) 前橋市長 殿	
提出者	
住 所 群馬県前橋市上新田町564-1	
氏 名 群馬県済生会 前橋病院	
院長 細内 康男	
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 027-252-6011	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	群馬県済生会 前橋病院
事業場の所在地	群馬県前橋市上新田町564-1
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	医療、福祉 (P83 医療業)
② 事業の規模	323床
③ 従業員数	従業員 657名 (令和7年3月末現在)
特別管理産業 ④ 廃棄物の一連の処理の工程	別紙①のとおり

(日本産業規格 A列4番)



(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙②のとおり

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	排出量	446.009 t	3.168 t
	(これまでに実施した取組) 医療系廃棄物の中で感染の恐れのないものは、産業廃棄物として区別し委託処理している。		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	排出量	440 t	3 t
	(今後実施する予定の取組) 分別の徹底を促す。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 感染性廃棄物 プラスチック容器 (20 L, 50 L, 65 L) バイハザードマーク黄 ダンボール容器 (20 L, 50 L, 80 L) バイハザードマーク橙 ・ 引火性廃油 (キシレン、メタノール) ポリタンク (20 L)
② 計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状とおり。

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） なし。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） なし。		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） なし。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） なし。		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
① 現 状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） なし。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） なし。		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現 状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	全 処 理 委 託 量	446.009 t	3.168 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	446.009 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	3.168 t
	（これまでに実施した取組） 排出事業者の責任として、適正処理に係わる処理施設の現地確認を実施し、処理状況を把握している。電子マニフェストを導入し、処理状況を即座に把握する。		

(第5面)

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	全 処 理 委 託 量	440 t	3 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	440 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	3 t
	(今後実施する予定の取組) 現状とおり、適正処理のため処理状況の把握に努める。		
電子情報処理組織の 使用に関する事項		【前年度（令和6年度）実績】	
		特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	449.177 t
		(今後実施する予定の取組) 特別管理産業廃棄物については、電子マニフェストを活用 して、適正処理に努める。	
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。

- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

別紙①

事業場において現に行っている事業に関する事項

④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程

感染性廃棄物	病院各部署より感染性廃棄物の発生 ↓ 感染性廃棄物の保管場所にて保管 ↓ 収集運搬業者(外部委託)が定期的に回収 ↓ 処分業者(外部委託)にて焼却処理 ↓ 最終処分業者(外部委託)にて焼却灰を管理型埋立処分
引火性廃油 (キシレン・メタノール)	検査部門よりキシレン・メタノールの発生 ↓ 特別管理産業廃棄物の保管場所にて保管 ↓ 収集運搬業者(外部委託)が排出状況に応じて回収 ↓ 処分業者(外部委託)にて焼却処理 ↓ 最終処分業者(外部委託)にて焼却灰を管理型埋立処分

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

(構成)

〔医療廃棄物委員会〕

委員長：副管理局長

委員：院長（管理責任者）（外科系医師）

副院長（内科系医師）

管理局長

看護部長

副看護部長

各看護師長（入退院支援センター、外来診療室、A 2 病棟、B 2 病棟、手術・中央材料室、C 2 病棟、血液・腹膜透析センター、B 3 病棟、A 4 病棟、A 5 病棟、A 6 病棟、HCU、老健）

医療安全対策室副看護部長（医療安全管理者）

感染対策室看護師長（感染管理者）

薬剤部長

検査科技師長

放射線科技師長

栄養士長

医事課長

総務課長

管財課長（実施担当責任者）

管財課主任

以上 29 名

(組織)



